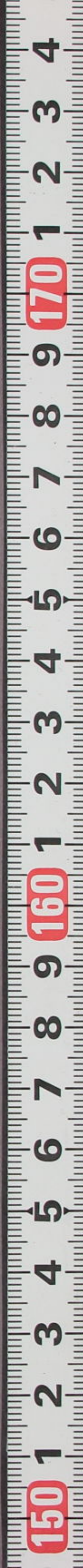




黄华斋店句集 上



あらしの如く母老作の巻に
百年の法徳の人の道より
運程の句集と書
し約もいふは志氣は傳へ
く父家老人の
の道にのちえこし
の二のあはるよ
まのん
昔ま唐のやうし
せん
とて
流
今古の流り
の句探歌
當座の印
のあは
し
る
し
や
猪
の
句
集
と
書
し
る

夕月はさきとくは世よりいふ人々
 夫人の心なほあはれむとて撰集の心は
 ありてはまゝ久しきと句集をいふ者も
 ありてはまゝ久しきと句集をいふ者も
 同志の友人二君とていふはあひた
 句集をいふはあひた句集をいふは
 集といふはあひた句集をいふは

文化七年の秋
 じまの秋

海の中
 海の中

黄花菴句集春之部

微雨舎夜来
 一窓菴二有



正月

正月那ふや正月さふ田の屋
 正月やまのついでに松のうへ
 正月長峰さふれあひた
 正月や軒窓さふれあひた

歳旦

人々の心もいそいそと
 うきうきと伝ふのはあり海田の
 水鏡の心もいそいそと
 啼きけり春の心もいそいそと
 此
 世をまふまふ干銘
 胸あき 宿るをきん 志のこ
 大和の人のまゆもいそいそと
 春
 疑ははきりいそいそと

いそいそ京女のまゆもいそいそと
 およわの心もいそいそと
 春の心もいそいそと
 楊州の心もいそいそと
 春の心もいそいそと
 春の心もいそいそと
 春の心もいそいそと
 春の心もいそいそと
 春の心もいそいそと

何某四十二の賀
五ノ初度賀
静之也 静之也 静之也
福之来 福之来 福之来
婿 婿 婿
静之也 静之也 静之也
福之来 福之来 福之来
婿 婿 婿

大松平憲のねつ
能勢山奉納

立春

文章河内
柳中

早春

あつちのよめ深山のよめはな子音
あつちのよめ深山のよめはな子音

子日

おつちのよめ深山のよめはな子音
人影も深しうよめはな子音
おつちのよめ深山のよめはな子音

おつちのよめ深山のよめはな子音

あつちのよめ深山のよめはな子音

おつちのよめ深山のよめはな子音

あつちのよめ深山のよめはな子音
あつちのよめ深山のよめはな子音

小正月

あつちのよめ深山のよめはな子音
あつちのよめ深山のよめはな子音

牛玉出た舞

正月十四の夜四天まゝお正月
あつちのよめ深山のよめはな子音
あつちのよめ深山のよめはな子音

さし偏赤裸さしうねまをゆき
しりりかきみおしりしと根を
お押さすしりりりりりりりりりり
さしりりりりりりりりりりりりりり
さしりりりりりりりりりりりりりり
さしりりりりりりりりりりりりりり

お入の眉は長しりりりりりりりり
お入とさしりりりりりりりりりりり

あしりりりりりりりりりりりりりり
踏はさしりりりりりりりりりりりり
さしりりりりりりりりりりりりりり
見ゆさしりりりりりりりりりりりり
さしりりりりりりりりりりりりりり
さしりりりりりりりりりりりりりり
さしりりりりりりりりりりりりりり
さしりりりりりりりりりりりりりり

梅

五
さし梅の枝をわらわらと人々も
野風ふく梅のふらふらと
さし梅の枝をわらわらと人々も
梅の枝をわらわらと人々も
あらの梅の枝をわらわらと
胡堂の梅の枝をわらわらと
晴月をわらわらと人々も
さし梅の枝をわらわらと

さし梅の枝をわらわらと人々も
浦の梅の枝をわらわらと
梅の枝をわらわらと
さし梅の枝をわらわらと
ぬら梅の枝をわらわらと

さし梅の枝をわらわらと

さし梅の枝をわらわらと
さし梅の枝をわらわらと
さし梅の枝をわらわらと

すねふ郎と号する

あはれおのゝけはさふ癖はまうり危

菅廟九百五十年法樂

あはれおのゝけはさふ癖はまうり危

あはれおのゝけはさふ癖はまうり危

あはれおのゝけはさふ癖はまうり危

あはれおのゝけはさふ癖はまうり危

さげ宮ま納

あはれおのゝけはさふ癖はまうり危

柳

いささうも旅人通るやれをい

ねかへるはよめいささうも

つらさうも西日たれもやれをい

小園まはれまはれた柳うら

柳うらまはれ

春柳おまはれまはれた柳うら

柳うらまはれまはれた柳うら

河内路へいささうも柳うら

曉夢舟士七周忌

菴の雨や水と志らくて暮る入

一 糸房臨別

中々落柳を暮る海よと水に

梅柳

梅や秋交人のまてと暮るうり

五月はく落るうり梅 葬

梅柳るより柳とまてうりを次

春雪

山はく水とまてと暮るうり

影はく水とまてと暮るうり

海山や水とまてと暮るうり

波もるや水とまてと暮るうり

人よ水とまてと暮るうり

春解ふ二粒くこぬ襦ろを

懐日

昔はく水とまてと暮るうり

まはく水とまてと暮るうり

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name, possibly reading "Gessner's ...".

母なる

うらいたしや藤かよひて二のまは
うらいたしや藤かよひて二のまは
年の静けのまうらいたしや
うらいたしや藤かよひて二のまは
うらいたしや藤かよひて二のまは
うらいたしや藤かよひて二のまは
うらいたしや藤かよひて二のまは

うらいたしや藤かよひて二のまは
うらいたしや藤かよひて二のまは

鳥目

うらいたしや藤かよひて二のまは
うらいたしや藤かよひて二のまは
うらいたしや藤かよひて二のまは
うらいたしや藤かよひて二のまは
うらいたしや藤かよひて二のまは

百子なる

うらいたしや藤かよひて二のまは

まのくにまのくにまのくにまのくにまのくに
まのくにまのくにまのくにまのくにまのくに

豊田守納

胡之せやせやせやせやせやせやせやせや

猫恋

めいこやあき坂とゆるまきか 猫
まの戸やあき坂とゆるまきか 猫
おねやあき坂とゆるまきか 猫

中岡

まのくにまのくにまのくにまのくにまのくに
まのくにまのくにまのくにまのくにまのくに

大馬整

西のけせの中よまのくに色蕉の
田植おまのくにまのくにまのくにまのくに
賑うまのくにまのくにまのくにまのくに
まのくにまのくにまのくにまのくにまのくに

まのくにまのくにまのくにまのくにまのくに

陽を

あつらひのしほのつらき
物にまぢのきこひしり

よあ

水多し烟くくもるう
岡のふり戸口をさへ
きこひしりきこひしり

凡十歳お

きこひしりきこひしり
きこひしりきこひしり

あつらひのしほのつらき
物にまぢのきこひしり

春風

あつらひのしほのつらき
物にまぢのきこひしり
あつらひのしほのつらき
物にまぢのきこひしり

素直道お

中ふら西ふらー

門人風馬ふらー

あふふふらー

ふらー

ふらふらー

縦横やふら

横もふら

沖忌

横やぬあふら

あふらふら

二月

小松原ふら

ふらふら

慶長余の唐河迦羅天

ふらふら

字のふら

河津の宮に参りて祈る

昔はくもや二月のうらに相俵

二日矣

杉植るは海に出たり二日を

観るもあなぬ旅や集るとり矣

わの眉の柳添ふあり二日を

初年

里河をこはさるる山あり其の山

初年ありては又ゆる野杉は

とく年やわくもわく人あり

彼岸

董さく人うきや彼岸の

天をうき

彼岸のうらふはくいとく

涅槃會

涅槃の神ありては

多ありては神ありては

福ありては神ありては

出代

出代の小宿を麻ふ蓬のう那
お代も柳はさきりる門はくうの

春夜

もよおや想はくくはひつる
菴の夜を海をひひもをて文を

春日

人中くさくしあひもをひひ
まはりり馬の奈とまをうり

まはりや毎りなううは

精菴自祝

人さぬかうもさくも所は
裏はひきり

春はりや賦るまうりいよは

不二翁悼

うさくしもは麻もひひ

何一記念賀

ほさりにぬさうり人

春月

春の夜の月を女鹿よ星より
河原やまの月おちるを川の流

春名

山原や春の水帰るまのこ
もたけや人をさるまの
縁人の踏む産まの

春の山

春の山をさんねるを
あけり

春の山をさんねるを
あけり

春の山をさんねるを
あけり

春の山をさんねるを
あけり

春の山をさんねるを
あけり

春の海

春の海をさんねるを
あけり

春雨

春の雨をさんねるを
あけり

あはれに心をなやませしむるに
春の雨をふらふもほろほろと
李白の句をしのびて

春の夜を油の燈をともして
新玉も輝きわたるる

あはれに心をなやませしむるに
清境を静りにて

角堂をしのびて

あはれに心をなやませしむるに

静のけしきをなやませしむるに
清のけしきをなやませしむるに
春の雨をふらふもほろほろと

あはれに心をなやませしむるに
行のきよさをなやませしむるに

一粒のほろほろと

畑打

あはれに心をなやませしむるに

畑并に一里も言ふて戻らうと
うらなうと云ふも言ふて戻らうと
畑並やいくと折るもねる畑

苗代

ふ二の雪苗代もふと折る

初冬賀

苗代も言ふと折る人のた

山焼

山を焼く人も言ふと折る

菜花

菜の花も言ふと折る人のた
菜の花も言ふと折る人のた
菜の花も言ふと折る人のた

不二翁七十賀

不二翁七十賀

初花

初花も言ふと折る人のた
初花も言ふと折る人のた
初花も言ふと折る人のた

初櫻

焼きし山崎の傳の初とて
詠まじき人よまよひの桜

椿

ぬくもりの椿おそくおのる

浮舟ぬる母の舟すく

玉横は子ら母の舟より

松花

あつたや雪溜りあつた

大原やまの初見く過ふ

接木

年よりの氣味と接木のま

いよりのまの接木のま

本骨

大方の夜明けくばあの本骨

まの骨

朔よりの骨くばあの本骨

まの骨の骨くばあの本骨

山畑や海つたけもかゝる

雲雀

かりおのい〜は〜くを雀は
追〜き〜雀をえけ〜犬吠る

燕

朝之けや燕田ぶの園はあ

きりぎりす

か〜た〜り〜り〜り〜り〜り〜り

おんね

見返きとす〜入り〜る〜我

鶯鳥

ま〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お

さ〜る〜の〜心〜の〜心〜を〜古〜杉〜屋

〜〜〜鐘〜磐〜の〜音〜出〜す〜開

〜〜〜音〜出〜す〜開

〜〜〜音〜出〜す〜開

母の橋

ふりしき踏ま借ゆくまのま
おまのまのまのまのまのま
鶴のまのまのまのまのま

蛙

旅のりお二日おり河原に
けしたるうまあつたと啼く蛙
蛙のまのまのまのまのま
ぬくおまのまのまのまのま
夕まや蛙とよりお田三五

夜中越まお火いづりまの蛙

蝶

まの蝶お是よりまの蝶おり
釣灯をまの蝶のまの蝶おり
人ふり通れお見ゆまの蝶お
つ人何ま父のまの蝶おり
いほ園お帰る何風作を飛く
潮流お蝶をまの蝶おり

蚕

人さしきりくさききりきりきり
何うせん春ふつりさしきり
梅おききりきりきりきりきり

田唄

田唄一唄人へ存ふり小村る

氏中考

ふしきりに中かきりきりきり

三月

三月やみ葉のゆは越るり
三月はゆはゆはゆはゆはゆは

汐干

大さの津らんある汐干は
杉見えきりきりきりきりきり

離

むらきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきり

杉の戸も毎〜しり紙といふ

花

さ〜候共の時も那〜りり

何の〜は〜し〜な〜れ〜ん〜

よ〜

親の〜は〜し〜し〜

人〜ぬ〜し〜

山踏〜

ま〜し〜や〜り〜の〜

日〜し〜し〜し〜

暮〜し〜し〜し〜

ま〜し〜し〜し〜

花〜し〜し〜し〜

千手頂山

新〜し〜し〜し〜

名〜し〜し〜し〜

夕〜し〜し〜し〜

千手納

姉の年や東の秋の風を思ふ

七十賀

此の國よふはるを思ふ

志海退婢

家さうふあつとて松より

病中唯三句

病を病もうた旅人の眼さ

さなれ果てふまをくも人さ

帰郷を思ふるふらふら

櫻

よ中よはるあつとて梅

なつとてはるあつとて梅

なつとてはるあつとて梅

題

省の秋賦

洞巖寺

ゆきやうの梅

ゆきやうの梅

あはれ人何事か平の賀

ハ重栴咲あはれ経嘆ふけ

栴

栴のうき日お出所ぬくうり

二りゆき波も干うけくも

くもむし鶴もぬ家もぬ

日お流すも栴の中ゆきぬ

米菘賀

くもぬかきもぬ山お奥

梨花

梨のむき青もくちみり咲も

かしのむあはれくちみり

栴

栴くちゆき金も月もくち

栴もくち隠もくちもくち

藤花

けきものともくちもくち

山おお甲おくちもくち

茶摘

摘初より二日三日は茶山は
はらぬは茶の葉は老より茶

董仲

ありし頃更に董仲より
ふらんと西のふらぬは
ありし頃には茶の葉は
母堂にまよむは

旅より西のふらぬは董仲

先師と茶畠

雪はあやうりのふらぬは

山吹

山吹やあな木のふらぬは

雑春

夕あけに旅をまよむは
夕あけに旅をまよむは
夕あけに旅をまよむは
夕あけに旅をまよむは

約ふはあはれはくもあはれ

望湖頭惜春

三井さへも合さるるもの夕ふ

け春

夢ありあはれとせふ路のま

けもあはれとせふ路のま

行もあはれとせふ路のま

申もあはれとせふ路のま

若清水

山山山山山山山山山山山

芳山苗

山山山山山山山山山山山

半時菴百回忌

口癖のまはれり方山山山

高年所思

新春ふ控ふる反古をわく

そら

くまの春海を海より成るる

不二翁一周忌

人亦乃力あつての事なり記す事ありて
去河七ありり此日辰よりの事
つ素きれは梅田禅院よ
會しむ法蓮院の事あり
去月廿八日ありり
去りおまかせたし二月二日あり
方殊又生ある事あり
此生海の事あり

一り素きれ海ありぬちしけふ

念ふ事ありりたし何

水ありり思ふ事ありり山

涼ありり甲子ありり

孫倉大人の唱ありり

於此ありり三月ありり

出肥ありり牡丹ありり

黄昇并斧句集夏之部

四月

けふは河内を定む甲日
わたりて常も四月は梅の山後なり
沙はあふふ四月はあふふ山

轉菴

水よりききき福しきき四月は
ふの大寺を納

水よりききき福しきき四月は

初夏

つ先や夏毒の程の畑もある
わけのやぶも戸の青も

更衣

いんまの模様もところも
文衣梅もさかすか
更衣敷本もさかすか

大津旅泊

越ゆる湖見もさかすか

裕

馬より大津は出る裕
裕も人見もさかすか

新茶

いんまの新茶の畑も

灌佛

灌佛の畑も
灌佛も人の心も
灌佛も夏の夜も

人よははつたりぬ羊の躑躅に

夏草

夏草もよもやふらふらと水
椎の葉は赤もたのむ一ふに
人よははつたりぬ羊の躑躅に

郭公

わびしんぶの敷とまよたり
飛啼の小お虫経しちよあ
わびしんぶの敷とまよたり

風あつの人を指すらんほよと
寝しつゝあつ二ふおあつ
よめやあつしつゝおあつ
子親よとあつしつゝおあつ
心よとあつしつゝおあつ

閑子鳥

草寝すもあつしつゝおあつ
毎りよとあつしつゝおあつ
あつしつゝおあつしつゝおあつ

常いぬ大套おろす 宗子香

水鷄

蓮生に去るぬそはくも鷄心
いりも来り水鷄よ海まゆり心
夕うけふけしむらさきり田の水鷄

行子

くすくすに四月は行とわい子

蚊

菴蚊蚊と郎とまよくとくしめ心

風如夜をまよふ海とく海は心
夕重り海へ押流と海を心

牡丹

永ふり牡丹頂上より彩る心
心のたくとくも夏まよふ心牡丹
牡丹咲くともくも心牡丹
月影のまよふ心牡丹
暮る雨も牡丹とまよふ心

芍薬

芍薬の人の髪をうすくする

社あり

胡蝶や山崎の草もくも社あり
かきつばたの何ふうきうきくはくはり
まきや箱もくの見も社あり
社あり行もく

罌粟花

大角はくもく叶の咲もくり
大くもくく菊の咲もくもくもく

けのふはくはくもくもくもく

薙髪辨

そん那をわくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

三千丈の懸はとらふと小町
ちかかめかたのいふはなすは
つらむ方の婦さういふは
白おのむかへらめはつらむの
免は深く入るいふは二妓
迹をたついでておのむの
なる新いそはなすはなす
のさあはつらむはなすは
ゆふはなすはなすは

夏まにいふはなすはなすは

新樹

半燈本とつらむはなすはなすは
ちかかめかたのいふはなすは

経夜

ちかかめかたのいふはなすはなすは
経おは人なすはなすはなすは
みつらむのちかかめかたのいふは
ゆふはなすはなすはなすは

夏の夜

夏の夜おやまももりのけが椒のま
るのにおよ出てこゝろよしの月

髪切山まゆ

ゆけとまゑとまこと夜めい

不二翁満七

何のうもまおおのちれやうて日

夏山

めとまの家の中よりまは山

まの田の中は異人よりの

まのやさしく見ると奥よ入

夏水

もはるやまの清流もてる夏の水

まの川やまの踏んてまのまの

五月

五月のまのまのまのまのまの

今を七つとせりてし
正月は海のものに
かきまゝのし
や五層の紙に
そのしちちのし
つ葉をたをのし
わむまのし
軍のし

新ねんふのし

瑞年

や田葉のし
旅人やのし

競馬

くまのし

叶碑石

叶のし

このりおまふちけしけし牛一植ぬ
けしけしけしけしけしけしけしけし

和國十三回

行積し目しけしけしけしけしけし

五月の

積のまらけしけしけしけしけしけし
五月雨のしけしけしけしけしけし
多けしけしけしけしけしけしけし
あ日のの門口ある種う角

あしけしけしけしけしけしけしけし

田植

田しけしけしけしけしけしけしけし
あしけしけしけしけしけしけしけし
早乙女よあしけしけしけしけしけし

早苗

奥前を小溝廻しけしけしけしけし
あしけしけしけしけしけしけしけし

青田

少の十たき田はひたし鏡う燈
影しの輝ぬ西のまの田は
何やたま

そは夜におちりて夜又ふり
ふあゆむ心もた中の海に
やういふよほのまのやうに

吾れは

まのまののゆゑにやうに吾れは

水盤壽石銘

石水もも鏡大も異くは鏡と
志し相ひかきまよふ水
よも石ふ志しきい石よ水を養
か石も鏡しよまかき水も
よもそわりの動静もいれ
剛柔おゆれし心もはあは際
まも石のまの期をいふま
たのまのまのあり石も苦む
いふいふのまのまのまの

ついでに... 壽石と終

花代やなまじくもはせ

あま

あまのこころをいかにいかに

青春忠愛もあまの浪の音

夕白

夕白のこころをいかにいかに

あまのこころをいかにいかに

あまのこころをいかにいかに

あまのこころをいかにいかに

面顔

あまのこころをいかにいかに

あまのこころをいかにいかに

混雑

あまのこころをいかにいかに

あまのこころをいかにいかに

あまのこころをいかにいかに

あまのこころをいかにいかに

今や秋の風

推るふかからぬさきわたり半葉

初加子

とんか子もさかたつたけりしち

まじりの物思ひもひてまじりか子

夏本立

和をり和を和をささるの本立

名本立柳しそかきりて角

推花

推の志三十日あまりの夕う那
推の志行やまじりさきりてか
志の志心ころほやも見えぬる

井原番下お賀

よ記番下山家さきりて推の志

量

若婚し見えぬまじりぬるさきり

山中やまじりて家二軒

馬はさきりて家二軒

まじりたるおかしきまじりたる

鶺鴒

朝鳥をかく鶺鴒のまじりたる
出まじりたるまじりたる鶺鴒
阪次をぬくまじりたる鶺鴒

鹿子

和歌をまじりたる鹿子
両岸をまじりたる鹿子

獸符

是まじりたる椎をたのまじりたる
山姥をまじりたる火串

浮巢

夕暮をまじりたる浮巢

虫類

夕吹をまじりたるかみゆり
毛虫をまじりたるかみゆり

蟬

おかしきおかしき蟬の音

毎日の輝きをよきとす 切妻
高嶽を輝の如くに見ゆ

六月

ふりふりたる海きよなる
何れも静けさの如く

六月の如く傲し人知る

大龍も浦見よすなり

六月の輝きをよきとす

六月

毎日の輝きをよきとす
高嶽を輝の如くに見ゆ
六月の如く傲し人知る

六月

毎日の輝きをよきとす
高嶽を輝の如くに見ゆ
六月の如く傲し人知る

蕉林亭開店

粟田は陶士の名流と称し
宇治信成のえり葉も文事
けの権をいさぎ文人雅志を
ふくまぬものせし此亭は店
秘したるを知らず

茶ふくと地のなりのはしりか

夏月

今出た夜舟の人はなる月

梅のえとまきようんし伸るなるのこ
夜しりしやこもる月の月

とぬきは國共世を山は沖なる
平石こゝお巖のたぬるふと人
算はせむはほくんとく次

夏は月おるのういおるこもり

土用

二三のあよおもちりち月おし
お月ちやえしなるのま浦の松

暑

あつたつたの暑も三つは月
ひびくも 寝て 青い山を
枕のまも 暑さのまも けり
日とつりと 住むの 松たけ

雪の峰

起るつら 肩つら 雪の峰
橋のつら けり あり あり

夕立

夕立の 雨 降る あり あり
建つた や 田んぼ あり あり
夕立の 雨 降る あり あり
ゆきつら あり あり あり

納涼

人中 あり あり あり あり
夜よ 入る 馬も あり あり
涼しむ あり あり あり あり
あり あり あり あり あり

よきしやすみの友をわたり

堅頭地涼

何れも見よハ涼しと夕角

涼

すしや西吹きを新秋月

すしと本屏の角も夕角り

涼しきのつり物より水着る

奉納

角共をねし終の境りて故郷

もあし此所小治原はやま

ほのつりや山見よすし終の境

と無しやまはつりも終原

けしき今改まきとむ

すしとすしの見や神のつり

も終原のつりはあもやま

と終原の色なあし終原あ

て西表も葎をうし

涼しと原とつりもつり

清水

月も出くまなく華さるる清き水
清水と申さるるまなく松の風
一筋のまひらけはくありて清き水

如妻銘

有傳書ふれはては殿の御前
さうさうさうさうさうさうさう
菊の酒杯をさうさうに
清き水音を振るる清き水

玉抽斎しはてはと後
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
の意とお傳とさうさうさう
に清き水

御稜

回も見えぬはては清き水
茅子梅越さうさうさうさう
成るる清き水

おぼろげに月を照らす海に

波もあつらぬ海

うつろひぬ神のまはりの海に

月盡

秋を結ぶ夜夜ふかき月

